

子どもの側からとらえた授業の「振り返り」の意義と効果

The Meaning and Effect of “Reflection” of The Lesson from The Child’s Side

川島 隆

1 はじめに

「振り返り」は、教育界のみならずビジネス界にも広く浸透しており、人材育成や組織改善の手法としてその有効性が認められている。もともと「振り返り」は、「内省」とも言い換えられ、自らの行いを想起し、内面を見つめ直すことで、思考や気持ちを整理することである。また、こうした営みは、リフレクションと呼ばれ、Donald A. Schönによって、その重要性が提唱されている¹⁾。

さて、2017（平成29）年に改訂された幼稚園教育要領では、指導計画の作成上の留意事項の一つに「見通しと振り返りの工夫」が「言語活動の充実」や「主体的・対話的で深い学び」と並んで取り上げられ、教員が幼児との遊びや生活の中で「見通し」と「振り返り」を工夫することが求められている²⁾。これまでの研究では、保育者による「振り返り」が、保育者の見え方や子ども理解の深まり、保育者間の関係づくり等に有効であるとの報告がなされている³⁾⁴⁾。また、太田は、幼児期からの「振り返り」活動が、メタ認知機能を促進する上で重要であることに言及している⁵⁾。

小中学校の教育現場においても、子どもによる「振り返り」に関する研究、とりわけ、書くことによる「振り返り」活動に焦点化した研究報告が数多くなされている。中尾・舟橋は、小学校算数科における数学的な見方・考え方の評価を捉える手法として有効であり、毎時間の記述を分析・考察することでその変容を把握できるとしている⁶⁾。また、清水は、同じく算数科における研究事例をもとに「振り返り」活動が、メタ認知力を含めた数学的な資質・能力の育成に寄与する可能性を確認している⁷⁾。さらに、奥村は、中学校体育科の研究実践から自らの学びを自己調整する主体的な態度を育成する上で、この「振り返り」を重視した授業デザインが重要であることに言及している⁸⁾。すなわち、子どもによる「振り返り」は、新学習指導要領で求める学力、そして、資質・能力を培う上で非常に重要な役割を果たすと考えられるのである。

ただし、これらの研究は、「振り返り」を、子ども自身がどうとらえているかという視点から論じているものではない。つまり、子どもにとっての「振り返り」の意義やよさに言及するものではない。

そこで、本研究報告では、筆者の1年間の授業実践における子どもの「振り返り」活動をもとに、その意義と効果を子どもの側から再考するとともに、今後の「振り返り」の在り方について、検討を加えてみたい。

2 実践方法

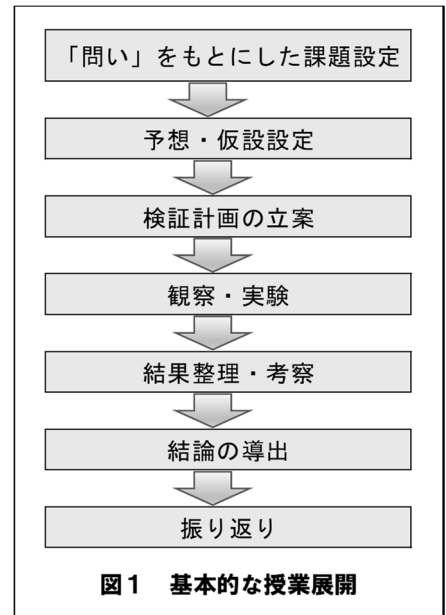
ここで報告する授業実践の概要は、以下のとおりである。

- (1) 期間 2020（令和2）年度4月～3月
- (2) 対象 静岡県公立K小学校 第5学年2学級（46名）
- (3) 教科 理科

(4) 方法

① 授業の概要

- 授業は、図 1 に示すように、子どもの問いをもとに学級集団内で共有された「課題設定」から始まり、子ども自身が子どもの言葉でまとめる「結論の導出(まとめ)」そして「振り返り」という展開で進めることを基本とした。
- 毎時間の授業において、その後半 1~3 分程度の時間を「振り返り」を記述する時間として設定し、ノートに記述をさせた。
- 記述内容は、「授業で学んだこと、気付いたこと、発見したこと、疑問に感じたこと」を記述するよう指示し、具体は、ほぼ子どもの判断に委ねた自由記述であると言ってよい。
- 量についても規定することはしない。よって、稀に無回答の子どもも見られた。
- 記述内容で、次時につながるもの、本時の学習内容を深く考察したもの、全体で共有しておきたいと授業者が判断したものなどは、次時の授業の導入場面で紹介したり、次時の授業の冒頭で自己の記述を読ませたりして活用した。



② 「振り返り」についてのアンケート調査の内容

- 期日 2021 (令和 3) 年 2 月 12 日 授業終末 5 分間
 - 対象 静岡県公立 K 小学校 第 5 学年 2 学級 (46 名)
 - アンケート項目
 - ・ 「振り返りは、自分のためになりましたか」と口頭による問い。
 - ・ 回答は、理科ノートに以下の 4 つの選択肢から選ばせ、その回答理由を文章記述させた。
- A : とてもためになっている B : ためになっている
 C : あまりためになっていない D : 全くためになっていない

③ アンケートの分析

- 選択肢ごとに単純集計する。
- 回答理由毎に、アフターコーディング、考察を加える。

3 結果及び考察

(1) 授業記録

単元「溶ける？溶けない？」(ものの溶け方)の授業を事例として取り上げ、授業記録とし、授業展開及び「振り返り」の具体について述べる。

単元導入では、子どもの「問い」を生み出すため、教師による提示実験を二つ行った。一つは、「食塩を筒に入っている水の中に入れてどうなるか」、もう一つは「食塩をティーバッグの中に入れて、水の中につけるとどうなるか」という課題に基づく実験である。子どもの「予想」「実験・観察」「結果」については、図 2 に示す通りである。

この授業で、子どもたちの中に「食塩はどこへ行ったのか」という「問い」が生まれ、食塩を溶かした水を「蒸発させる」方法と溶かす前後の「重さを比べる」方法で、食塩の行方を調べるといふ授業へと進んでいった。

この授業の「振り返り」について、A子は、食塩の溶け方、そこで出会ったシュリーレン現象についての驚きや疑問について記述していた(図3)。また、図4に示すように、子どもたちの「振り返り」のうち、教師が皆と共有したいものをスライドにして、次時の授業冒頭で紹介した。

これら子どもたちの「振り返り」の記述の中で興味深いのは、目の前で起きている現象を「たき」「油」「はるさめ」「流れるように」「うようよ」等、様々な表現で書き綴っており、表現の多様性が見られたことである。また、単に感想で終わらずに、「砂糖との比較」「溶けるスピードの違い」「溶けることの限界」等、実験をもとに様々な視点から学びの方向性、可能性を綴っていることも特徴的である。本報告の論点とははずれるが、こうした多様な表現や視点は、授業デザインをする上で貴重な資料となり得るものと思われる。

これらは、単元の一時間の振り返りの例であるが、こうした「振り返り」活動(記述)を一年間重ねていった。

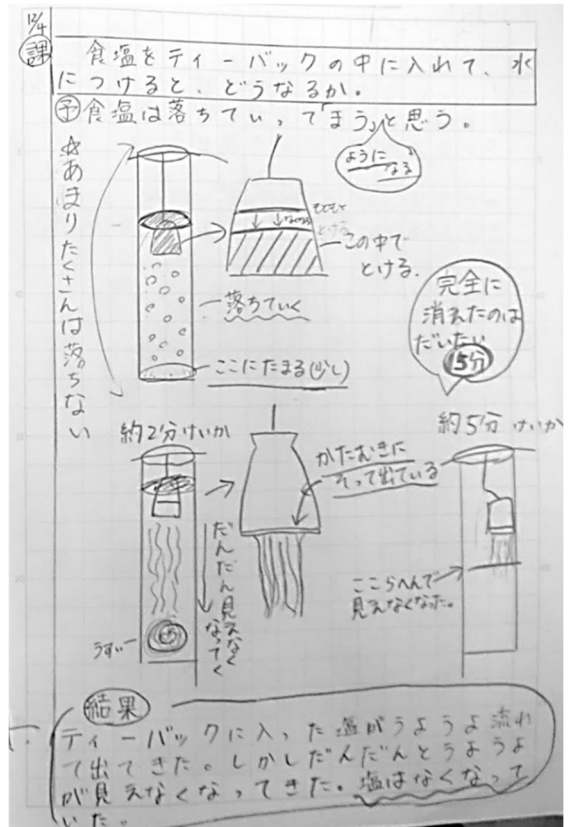


図2 子どもの授業記録ノート

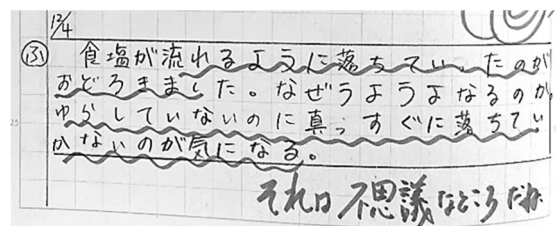


図3 A子の授業記録ノート「振り返り」

食塩をティーバッグの中に入れて水につけると、どうなるか?

ふ

- 「男さんの考えで、うようよして流れていった。**たき**のように流れていった。**油**のように流れている。**真下**に流れていった。(K男)
- 食塩の出方は、**はるさめ**のようだった。なぜティーバッグに入れた食塩は、**透明**に出てきたのか。(H男)
- **流れるように落ちていった**のが驚いた。なぜうようよなるのか。**揺らしてないのに真っすぐに落ちていかない**のが気になる。(R子)

食塩をティーバッグの中に入れて水につけると、どうなるか?

ふ

- **食塩は、水に溶ける**ことが分かった。(M女)
- つぶのままにいたと思ったが、うようよしたのがでてきたから、**おどろいた**。**砂糖はどうか**なるのかが気になる。(Y子)
- 砂糖と塩では、**溶けるスピード**に違いがあった。(K子)
- 溶けるものには**限りがあるのか**、実験してみたい。(M子)

図4 次時に紹介した子どもたちの「振り返り」

(2) アンケート調査結果

「振り返り」についてのアンケート調査は、先の項で述べたとおりであり、子どもたちは、図5に示したように、ノートに記述・回答した。

その結果は、表1及び図6に示す通りである。「振り返りは、自分のためになっているか」という問いに対して、「A とてもためになっている」と回答したのは、35% (16名) であり、「B ためになっている」との回答は、43% (20名) であった。そして、「C あまりためになっていない」という回答は、22% (10名)、「D 全くためになっていない」との回答は、見られなかった。

この結果をみると、クラス間で若干の差は認められるものの、全体としてA及びB回答を合わせると78%を占め、概ね多くの子どもが「振り返り」を書くことのよさや意義を感じていると思われる。

次いで、この回答理由については、回答別に図7～9にまとめた。なお、理由の記述内容毎に類型化(アフターコーディング)を図り、考察することとした。

「A とてもためになっている」と回答した16名の理由には、「自分の考えをまとめられるから」、「また疑問が生まれ、考える力がついていくから」、「文章を書く力になっていると思うから」などの記述が見られ、「学びの深まり」「思考力の高まり」「表現力の向上」「学ぶ意欲の喚起」「その他」の5つに分類された。また、「B ためになっている」と回答した20名の記述には、「学習の振り返りができるから」、「何故そうなるかなどと考えたりするようになったから」などが見られ、A回答と同様に、「学びの深まり」や「思考力の高まり」、「学びの実感」、「その他」の4つに分類された。

本田は、書くことの意義を「思考力を高めること」「理解力、認識力を高めること」「表現力を高めること」等であると述べているが、本報告での子どもたちの記述は、子ども自身が一年間の「振り返り」を書くという経験からそうした力の高まりを実感し、回答しているものと思われる⁹⁾。また、金子は、学習者自身が「書くことを続ける」ことの意義をどのようにとらえているかについて考察しており、主に「学習内容の理解の実感」「書くことの力の向上の実感」の2つを取り上げている¹⁰⁾。金子の報告は、対象が高校生であるが、書くことの意義として挙げているものは、本報告と共通していると言える。

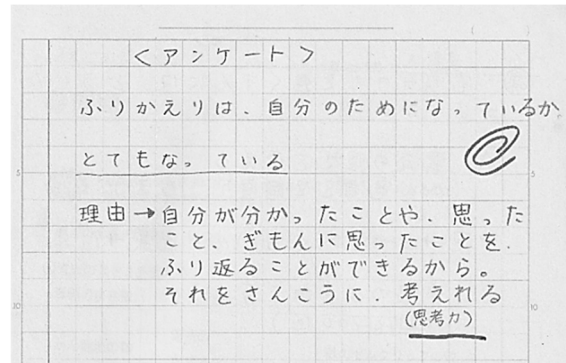


図5 アンケート調査回答例

表1 アンケート調査回答結果 (数字は人数)

回答	1組	2組	計
A	10	6	16
B	9	11	20
C	4	6	10
D	0	0	0
計	23	23	46

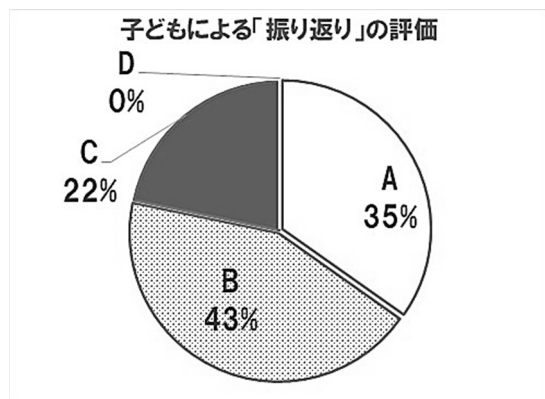


図6 「振り返り」に関するアンケート調査結果

学級	児童	A回答の子どもとその回答理由	類型
1	116	僕は、振り返りで なんでなのかな 等考えられるから。	学びの深まり
1	113	僕は、自分で疑問をたてて何々だからなっているんじゃないかと 考えられると思う から。	学びの深まり
2	223	書く脳みそが働いて勉強もとてもよくなるから。	学びの深まり
2	201	振り返りができて、 忘れたことを思い出せる 。	学びの深まり
1	101	自分の 考えをまとめられる から。	学びの深まり
1	123	友達 の振り返りを聞ける。 新たな疑問 が出る。	学びの深まり
2	220	振り返りに書いた疑問を試した時があると、自分が予想していたのと同じだったり、違っていたりして、 新しい疑問が生まれる から。	学びの深まり
1	102	疑問に思うことを書き出してみると予想を立てられるし、それをなぜか実験してみると、その理由がわかる。そして、また疑問が生まれ、 考える力がついていく から。	思考力
2	208	自分が分かったことや思ったこと、疑問に思ったことを 振り返ることができる から。それを参考に考えられるから。(思考力)	思考力
1	112	他の人の意見について知ることが出来、 自分の考えをたくさん持つことが出来る から。	思考力
1	121	たまにバラバラ見て、振り返っているし、 文章を書く力 になっていると思うから。	表現力
2	202	文章を書く力がつし、 今日ならたことを思い出せる から。	表現力
1	122	思ったことや疑問に思ったことを書けるから。	表現力
1	111	新たな疑問を持つことによって、 分かったことがあるとうれしくなる 。また、他の人の考えも聞けて確かにそれも気になることになり、 知りたくなることが出来る から。	学ぶ意欲
2	206	電気のことを知ったり水のことを知ったりして、もしこれを勉強して困ったときに役立つから。	その他
1	105	直感	その他

図7 子どもによる「振り返り」のA評価の回答理由

つまり、子どもたちは「振り返り」をとおして、自らの学びを深めながら、学習内容の理解をより確かにするとともに、表現力（「書くことの力」）を高めているといつてよい。本報告では、どれほど高まったかは明らかにできないが、少なくともそのことを子どもが実感していると考えられる。

最後に、「C あまりためになっていない」と回答した10名の記述は、図9に示す通りである。「思いつかず、適当に書いているから」、「将来役立つかわからないから」などの記述が見られ、書くことの意識が低いこと、書くことの意味が見いだせていないことがうかがわれる。篠原が指摘するように、一般に小学生から大学生まで見ても、文章を書くことの苦手意識は強く、書く力も十分に備わっていないのが現状であると考えられ、本研究対象となった子どもたちも例外ではない¹¹⁾。そこで、今回の調査を踏まえ、「振り返り」を書く指導に当たっては、以下のような手立てが必要ではないかと考える。

- ① なぜ「振り返り」を書くのかという、書くことの目的（意義）を子どもと共に確認・共有する場を持つ。
- ② 何を、どのように書くことよいか、「振り返り」の内容の具体を明示する。
- ③ 「振り返り」を書くことよさを実感させ、書くことへの意欲付けをする。

学級	児童	B回答の子どもとその回答理由	価値付け
1	108	新たな疑問 が思いついたりする。 友達 の疑問等も分かる	学びの深まり
1	114	ノートを振り返って分からないことを復習したりする	学びの深まり
2	216	振り返りを書くことによってテスト前に振り返ることができるので、ためになっている。 確かめることができる ので、とてもよい。	学びの深まり
1	118	振り返りで分かることがあるから。 まとめられる から。	学びの深まり
2	212	その学習の 振り返りができる から。	学びの深まり
2	215	新たな疑問が生まれたり 、またワクワクが増えたり、自分の知らなかったことまで知ることができるから。	学びの深まり
2	209	新たな疑問 につながるから。	学びの深まり
1	120	振り返りを書くこと、 自分の疑問、分かったことが分かる から。	学びの深まり
2	204	実験などをやった後に振り返りを書いて、結果が出た時の気持ちを思い出せるし、結果をもう一度書くことでさらに覚えられると思ったから。そして、次にどんなことをしたいか考えられるのでいいと思います。	思考力
2	214	振り返りをかいていて、違うことにも 疑問を持ったり、なぜそうなのかなどと考えたり するようになったから。	思考力
2	221	考える力がついた から。	思考力
2	224	頭で考えて書いているから、テストの時、よく記憶に残っている。あと、後で見直せるから。	思考力
1	106	思ったこと感じたこと疑問に思ったことを書けば、授業の中で解決できることもあり、 「なるほど」となる から。	学びの実感
1	110	しっかりと 自分の考えを書けている から。	その他
2	222	復習できる。	その他
1	103	家で テスト勉強をするときにわかりやすい 。	その他
1	104	真剣に書いている時とまじめに書かないときがある	その他
1	109	疑問や分かったことをしっかり書いているけど、時々書いていない時がある。	その他
2	218	自分たちが大人になったら、使うと思うから。	その他
2	213	考えが思いつかない。	その他

図8 子どもによる「振り返り」のB評価の回答理由

学級	児童	C回答の子どもとその回答理由	価値付け
2	207	課題による。	書くことへの意識
1	107	思いつかず、適当に書いているから。	書くことへの意識
1	119	ぼくは振り返りを書いているけど、振り返りを大体適当に書いているから。	書くことへの意識
2	203	理由は、勉強の振り返りを書いているだけで、あまり振り返られていない。	書くことへの意識
2	205	将来役立つかわからないから。	書くことの意味
1	115	役に立っていないときがある。	書くことの意味
2	210	家であまり役立つさうじゃないから。	書くことの意味
1	117	将来あまり役立つたないと思うから。	書くことの意味
2	219	まとめと同じだから。(まとめにふりかえりを書いているから)	書くことの意味
2	217	次に生かせる 。	その他

図9 子どもによる「振り返り」のC評価の回答理由

4 まとめ

本研究報告では、以下のことが明らかになった。

- (1) 子どもの声に基づいて授業における「振り返り」の有用性が、あらためて認められた。
- (2) 子どもにとっての「振り返り」の意義は、「学びの深まり」「思考力の高まり」「表現力の向上」等であると考えられる。詳細は、子どもの側に立ったさらに精密な調査研究が必要である。
- (3) 「振り返り」の内容は、そのねらいに照らして検討する必要がある。

図10に示すように、授業の「振り返り」について、「いつ」「何を」「どのように」の3つの視点からあらためて整理してみる。今回は、いつ振り返るか「授業終末」、何を振り返るか「自由記述」で、どのように振り返るか「書くこと(記述)」という方法に限定して実践研究を進めてきた。

観点	内容
いつ(When)	授業や活動の導入、授業終末、授業終了後
何を(What)	視点の提供、自由記述
どのように(How)	発言、話し合い、記述

図10 「振り返り」の方法

一言に「振り返り」と言っても様々な方法が存在するため、まずは、そのねらいと方法を明確にした上で実践せねばならないだろう。

また、前述のように、「振り返り」には、教師にとっての意義と子どもにとっての意義があり、教師は、どちらかと言えば、教師にとっての意義を考えがちであり、どうしても子どもの学習を評価するという事に注視しがちである。今一度「振り返り」の意義を認識した上で、授業デザインに組み入れたり、子どもの側に立って考えてみたりする必要があるのではないか。

なお、今回の研究報告から、図11のような「振り返り」の意義が示唆された。今後、これらの意義について検証していきたい。

対象	振り返りの意義
子ども	自分の考えを整理したり、深めたりする(メタ認知)
	学習内容を自覚化・自己評価する(メタ認知)
	表現力を高める
	自己調整力を付ける
	アウトプットすることで学習内容を定着させる
教師	個々の子どもの学びを評価する
	授業評価を行い、授業改善につなげる

図11 本研究報告から示唆される「振り返り」の意義

さらに、本報告では、「振り返りの意義と効果」としながらも、何がどれほどの効果があったかを評価するところまでに至らなかった。今後は、この「効果」について子どもの側から評価すべく研究を継続させていきたい。

5 引用・参考文献

- 1) Donald A. Schön: 「専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える」、ゆみる出版、2001.5.1
- 2) 文部科学省: 「幼稚園教育要領」(平成29年告示)、pp105-106、2018.03
- 3) 中島寿子: 「保育者の成長における保育実践の振り返りの意味について」、西南女学院大学紀要 Vol.14、2010.03.01
- 4) 田島大輔: 「保育における振り返りのプロセスについての一考察」秋草学園短期大学紀要 36号(2019)、2020.03.31
- 5) 太田友子: 「幼児期における「振り返り」活動—幼小接続期におけるメタ認知に関する一考察—」、大阪総合保育大学紀要 12、pp179-196、2018.03.20

- 6) 中尾真也、舟橋友香：「振り返りに着目した数学的な見方・考え方の評価に関する一考察－第5学年面積の単元を事例に」、次世代教員養成センター研究紀要、pp135-142、2021.03.31
- 7) 清水紀宏：「算数科の授業終了時における振り返り活動に関する研究」、福岡教育大学紀要第70号、2020.12.10
- 8) 奥村拓也：「主体的に運動に関わる生徒の育成—振り返りを重視した授業デザインの工夫—」、愛知教育大学教育実践研究科（教職大学院）修了報告論集（11）、pp161-170、2020.03.31
- 9) 本田容子：「書くことと考えることの相互作用の意味」、全国大学国語教育学会国語科教育研究,大会研究発表要旨集 117 巻、2009
- 10) 金子萌：「学習者が実感する『書くことを続ける』意義」、鳴門教育大学国語教育学会語文と教育（31）、pp85-74、2017.09
- 11) 篠原京子：「学習指導要領からみる小学校『書くこと』の変遷に関する一考察」、全国大学国語教育学会国語科教育研究、大会研究発表要旨集 139、pp223-226、2020